

R7(2025)年 共通テスト追試『淮南子』現代語訳

※一部、振り仮名や返り点も補足しています。

だんかんぼく じしテ ろくヲ をル いへニ

段干木 辞レ禄而処レ家。

(戦国時代の魏の人である) 段干木は(俸禄をもらう) 官職を辞退して、自宅に居た。(ある日、)

ぎノぶんこう すギテ そノりよヲ しょくス これニ

魏文侯 過ニ其閭一而軾レ之。

魏の文侯はその村里の出入り口にある門に立寄り、これ(「段干木のいる村里」)に車上から敬礼した。

そノぼくいハク きみ なんすレゾしょくスルト

其僕曰、「君ア何為軾。」

文侯の御者が言う、「あなたはどのような理由で(車上から) 敬礼なさったのですか」。

いハク あり これもつテ しょくスト

文侯曰、「段干木在、是以 軾。」

文侯が言う、「(この村には) 段干木が住んでいる。これが理由で敬礼したのだ」。

いハク ハ ふいのしナリ

其僕曰、「段干木 布衣之士。」

御者が言う、「段干木は、官位のない人物です。」

きみ しょくスルハ そノりよニ ず はなはダシカラ やト

君軾ニ其閭一、不ニ已甚一乎。」

あなたがその村里の門で(車上から) 敬礼をなさるのは、度が過ぎるではありませんか」。

いハク ハ ず はしラ せいりニ

文侯曰、「段干木 不レ趨ニ勢利一、

文侯が言う、「段干木は、権勢や利益を求めて行動せず、

いだキテ くんしのみちヲ いん しょシ きうかうニ

懷ニ君子之道一、隱ニ処 窮巷、

心に君子の道を抱き、わびしい路地裏に隠れ住んでいるが、

せい シク せんりニ くわじん あへテなカラシ しょくスルトコトや

声施ニ千里一。寡人敢勿レ軾 乎。

名声は千里先まで広まっている。(よって) わたくしはどうしても車上から敬礼しないではいられない。

ハ かがヤキ とくニ ハ ク せいニ

段干木 光ニ於徳一、寡人 光ニ於勢一。

段干木は 徳に輝き、 わたくしは権勢に輝いている。

ハ とミ ぎニ ハ ム けうニ

段干木 富ニ於義一、寡人 富ニ於財一。

段干木は 義に富み、 わたくしは財貨に富んでいる。

せいハズ	しカ	Xノ	たつとキニ
B 勢不レ若ニ徳尊一、			
(わたくしの持つ) 権勢(の価値) は(段干木の持つ) 徳の尊さに及ばず、			
ハズ	しカ	Yノ	たかキニ

財不レ若ニ義高一。
(わたくしの持つ) 財貨(の価値) は(段干木の持つ) 義の高さに及ばない。

干木雖三以レ己易ニ寡人一不レ為。
干木は、自分の立場を(主君である) わたくしの立場と代えることができたとしても、やらないだろう。

われハ ひび二いううトシテ はヅ かげニ
吾 日悠悠 慙ニ于影一。
わたくしはいつも憂いており、自身の影に向き合つて恥じ入る。

子何以軽レ之哉。
なにヲ テ カロズル これヲ ヤト
おまえは、なぜ(高潔な) 彼(=段干木) を軽んずるのだ」と。

其後秦将ニ起レ兵伐レ魏。
その後、 秦が 兵を起こして今にも魏を伐とうとした。(その時、)

そののち しん まさニ おコシ へいヲ うタント ぎヲ

司馬庾諫 曰、
しばゆ いさメテ いハク
司馬庾は 諫めて言った、

「段干木 賢者、其君礼レ之、
ハ けんじゃニシテ ノきみ れいスルコト ヲ
「段干木は 賢者であり、 その主君が彼に敬意を払っていることは、

天下莫レ不知、諸侯莫レ不聞。
なク ざルハ シヲ しょう ンシ ざルハ きカ
天下に 知らない者はおらず、 諸侯も その噂を聞いていない者はいません。

拳レ兵伐レ之、
あゲテ へいヲ うタバ ヲ
兵を拳げて (魏を) 討伐するならば、

無三乃妨ニ於義一乎。
なカラン すなはチ さまたグルコト ヲ ヤト
どうして(我が国は) 道義に反することにならないでしょうか。 いや、なるでしょう。」「

於レ是秦乃偃レ兵、輟不レ攻レ魏。
おいテ ここニ しん チ ふセ ヲ ヤメテ ず セメ ヲ
そのようなわけで、 秦はなんと 兵を収め、 魏を攻めることを中止したのである。

R7(2025)年 共通テスト追試 問6 サブ資料

『呂氏春秋』現代語訳

ぎふんこうハ ベシ いフ よク もちヲルト ヨ
魏文侯 可レ謂ニ善 用 一レ兵矣。

魏の文侯は

(他国に侵略を思いとどまらせたので) 優れた戦略家だと言つことができる。